

# 月刊脊振

福岡県議会議員  
(南区選出)  
**ひぐち明**  
県政活動報告誌



義務教育が、地域的な偏りなく適正に行なわれているかを確認し、より効果的な学習方法を確立するためにスタートした全国学力テスト。各県から2・3割程度の小中学校が抽出されて小学6年生と中学3年生がテストを受けることになっており、その費用は全額が国の補助によってまかなわれます。

一方、福岡県では県下の全小中学校が参加するいわゆる悉皆調査の形式をとっており、その費用は福岡県が支出しています。福岡県の悉皆調査の目的は各学校・地域の学力をきめ細かく分析して学力の地域間格差をなくすことにあり、平成25年度までに、全科目において全国平均を上回ることを目標にしています。

毎年全国学力テストで正答率の高い秋田県、福井県、石川県、富山県なども悉皆調査を行なっていますが、これらの県と福岡県とは異なる点があります。それは、福岡県は小中学校あわせて全国平均を上回ったのは10教科中たった1教科と苦戦しており、5回目となる今回にいたるまで順位の向上が見られないという残念な結果になっていることです。



学力の地域間格差についても、福岡市が正答率が高く、筑豊や北九州が低いという傾向は過去5回一貫しており、悉皆調査による学力テストを有効活用できているとはとても言いがたい状況です。

そこで、私は先月の県議会で、学力テストの結果を受けた今後の学力向上のための改善策について教育長に質問いたしました。悉皆調査の目的のひとつである、学力の県内地域間格差の改善についてですが、福岡県は現在、学力テストの結果の公表を各教育事務所単位(福岡県を8つに分けた区分)で行っています。私はこれを各市町村単位の公表に改めるべきと提案したのです。

## 教育委員会の責任を強化すべき

教育の責任は各市町村の教育委員会が第一に担うべきものだと思います。しかし、現在の学力テストの公表のされ方では、テスト結果の責任の所在がはっきりしません。市町村別でテスト結果が公表されるようになれば、その責任は明確に市町村教育委員会にあると分かるようになります。そうなれば、テスト結果を受けたそれぞれの教育委員会が互いに切磋琢磨するようになり、福岡県の学力の底上げに繋がっていくでしょう。私の提案が採用されれば、悉皆調査を実施している意義も正当なものとなり、これまで以上に意味のある調査になるものと思います。

文部科学省は学力の序列化や競争激化を招くとの理由から市町村単位の結果公表は行わないという立場です。しかし、例えば、高知県のように過去5回の学力テストで正答率を挙げた県は、「悪い結果に衝撃を受け、危機感を抱いて真摯に努力した成果」であると関係者は言っています。また、大阪府のように独自の学力テストを実施し市町村単位の結果公表を行っている自治体もあります。ゆとり教育も見直されている昨今においては、ある程度は競争という意識を持ち合わせつつ学力向上のための対策に取り組まなければいけないのではないのでしょうか。

## 南区トピックス

年末年始はゴミの持ち出し日が変わります。不燃物は12月31日、1月3日、燃えるごみは1月1日の夜は持ち出しができませんので、振替持ち出し日に出してください。振替日のご確認は <http://www.city.fukuoka.jp/kankyokatetigomi/nematsu.html> へ。



# 全国学力テストの現状を憂う(後)

ますます冷え込みが厳しくなってくる年末年始。受験生を抱えるご家庭には、決戦の時ともいえる季節です。生徒の皆さんはそれぞれ頑張っておられると思いますが、それをサポートする福岡の教育現場にはまだまだ改善の余地があるようです。私が先の県議会で、「テストの結果を各市町村単位に細分化して公表し、各市町村の教育委員会にテスト結果の責任があることを明確にすべきである」と提案したことは前述のとおりです。これが実現すれば、その弱点や長所、その土地ならではの教育に関する困難や課題をもっとも正確に把握しておられる現場

順位	都道府県	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計
1	福井県	25.2	6.1	24.5	8.4	15	79.2
1	秋田県	25.5	6.3	24.3	8.5	14.6	79.2
3	富山県	25	6	23.9	8.2	14.8	77.9
4	石川県	24.6	6	23.9	8.2	14.6	77.3
5	群馬県	24.7	5.9	22.9	7.9	14.3	75.7
5	岐阜県	24.2	5.9	23.4	8	14.2	75.7
7	静岡県	24.4	5.8	23.5	7.9	13.8	75.4
.....							
44	福岡県	23.7	5.6	21.4	7.1	12.9	70.7
45	大阪府	23.4	5.3	21.7	6.9	12.4	69.7
46	高知県	23.2	5.5	21	6.8	12.3	68.8
47	沖縄県	21.6	5.1	18.3	5.8	10.8	61.6
	全国平均	24.3	5.8	22.9	7.7	13.6	74.3

平均正答数

の先生方が、学力テストをひとつの指標としてしっかりと捉え、責任感と使命感をもってその対策に真剣に乗り出しやすくなるのではないのでしょうか。しかし、どんなに学校内で先生方が努力しても、児童・生徒が家庭で学習をする習慣がなければ成績の向上は難しいことも事実です。家庭学習習慣づくりの一助としては学習塾に

# 月刊 脊 振

福岡県議会議員  
(南区選出)

ひぐち明  
県政活動報告誌



通う子ども達が増えており、学力テストの対象である中学校3年生では、実に6割を超えることも達が通塾しているとのこと。通塾については賛否両論あると思いますが、これだけ通塾習慣が浸透しているのですから、それを念頭に置いた仕組みづくりをする必要があります。たとえば、学力テストの結果がふるわなかった筑豊や北九州では、全国平均の数倍の生活保護需給率が続いています。世帯の経済状況が深刻な場合、もちろん通塾は経済的に困難であり、その点だけでも他の子ども達との学力差が懸念されます。さらに、生活保護世帯では、経済的困窮から子ども達も落ち着いて勉強をできる環境になかったり、家計を助けるために高校進学を早々にあきらめてしまい、学習意欲がうせたりするケースも数多く報告されています。

## すべての子どもに平等な教育機会を

このような例を少しでも減らすために、先日、福岡市は生活保護世帯等の小中学生が無料で通える学習塾を開くことが発表されました。近年、全国的に生活保護世帯の子どもに対する学習支援の取り組みが高まっており、支援を受けた子ども達の高校進学率が上昇するなど着実な成果があがっています。福岡市に続き、県でもこのような学習サポートを検討する必要があるでしょう。学力テストというひとつの指標を活かして、自らの地域の弱点に向き合い、課題点を克服することは非常に大切ですが、家庭の事情のために学習できない子ども達のサポートを見落とすわけには行きません。学習の必要性を声高に訴えるばかりではなく、それぞれの地域特性にあった解決法を提示し、すべての子ども達に平等な教育機会が与えられるよう、環境整備に努めるため、工夫していきたいと思えます。皆様、応援お願いします。

## 南区トピックス

あわただしい年末年始、この寒さも手伝って、運動不足になりがちです。南体育館や南市民プールは、一時利用だけでなく、様々なレクレーションプログラムもあります。新しい年、新しい趣味にチャレンジしてみたいかがでしょうか。